
[た よ り]

香川県支部だより

広畑 衛

はじめに

香川県透析医会は、昭和 61 年に発足し、大林誠一前会長の卓越した手腕と、温厚な人柄により、香川県内の透析を行っているすべての診療所・病院を会員として活動を展開しているが、今回香川県の透析の歴史と現況について報告する。

さて、平成 14 年度の診療報酬改定では医療費は 2.7% のマイナス改定であるということでスタートしたが、この数値は各診療所や病院の診療内容により大きな差異が出現していることは周知の事実であり、日本透析医会の報告によると外来透析医療費の低下はマイナス 8.75% であったとされている。香川県内の透析施設でも、今回の改定では大きな波紋が投げかけられ、問題提起をされたが、幸いにも各透析機関が団結して、より良質の透析医療を提供することがわれわれの使命であるということで一致し、積極的な活動が行われている。

1 香川県の透析医療

香川県の透析史は、現在も県内で最大規模を誇っているキナシ大林病院が、昭和 43 年 7 月にトラベノール社製 RSP 人工腎で最初の透析を行ったことに嚆矢を発している。その後、昭和 45 年 4 月に香川県立中央病院、昭和 45 年 12 月に香川労災病院、さらに昭和 47 年 6 月には国立善通寺病院と順次透析施設が拡大されていった。

そのころ四国内では、昭和 47 年 10 月に第 1 回人

工透析四国懇話会が 20 数名の医師の参加でスタートし、第 6 回から人工透析四国研究会に発展し、以後四国透析研究会と改称して、現在も精力的な活動が続けられている。香川県でも昭和 61 年 3 月に県内における当時の 22 透析施設の賛同を得て研究会を発足すると同時に、香川県透析医会として結束することとなり、昭和 63 年 7 月第 1 回香川県透析医会・医学会が開催されている。その後、現在まで 29 回の例会が行われている。

2 現況

香川県透析医会は、各透析施設がお互いに切磋琢磨して良質な医療を透析患者に提供することを主旨としているため、すべての香川県会員が日本透析医会に加入している訳ではないが、現在県内で透析医療を行っている 45 医療機関は全施設とも香川県透析医会には参加している。

香川県内での慢性透析患者数は 2,067 名（2001 年 12 月 31 日現在）で、人口 100 万人対比では 2,022.5 となり、わが国の都道府県別人口対比では第 8 位の比率となり、都道府県面積ではわが国最小面積の香川県としては、透析患者密度はかなり濃いといえる。また、香川県の透析患者の高齢化は全国と同様に進みその対策に迫られている。透析患者の予後については、香川県は全国平均とほぼ同様の傾向であるが、僅かながらその平均値よりは良好な成績を得ている。

3 活動状況

総会は毎年2回開催されており、医療制度改革や診療報酬の改定などについての連絡周知や報告が行われている。役員会は特に問題があれば臨時で開催されるが、通常総会前に定期的にかかれていた（表1）。

学術研修会は総会に合わせて年2回開催されている。参加対象者は医師のほか、看護師や臨床工学技士など透析に従事しているスタッフが多数参加するため、毎回150名を越えて盛会である。

最近の特別講演の演題と演者は以下のとおりである。
（ ）内は参加者数

- 平成11年度
 - 第22回「血液透析療法の今後の課題」
高橋進先生（162名）
 - 第23回「腎性上皮小体機能亢進症の病態と治療」
富永芳博先生（171名）
- 平成12年度
 - 第24回「至適で自由な透析医療を達成するために」
川西秀樹先生（198名）
 - 第25回「透析患者の栄養管理の実際
—透析間体重増加の抑制を中心に—」
金澤良枝先生（170名）
- 平成13年度
 - 第26回「透析アミロイドーシスの臨床」
中本雅彦先生（156名）
 - 第27回「日本の透析医療を展望する」
武本佳昭先生（168名）
- 平成14年度
 - 第28回「血液透析における最近の工夫」
新里高弘先生（156名）
 - 第29回「透析医療とリスク」
山崎親雄先生（174名）

さて、2002年3月、学術・編集担当委員のご努力とご苦勞にて「香川県透析医学会誌」創刊号が発行された。第2巻は今年度近々に発行される予定であり、

表1 香川県透析医学会役員

会 長	広畑 衛
副 会 長	沼田 明
運営委員	河野 明, 鬼無 信, 塩見勝彦, 高橋則尋, 富田忠孝, 平石功治, 山本修平, 湯浅繁一
監 事	井下謙司, 横井 理
顧 問	大林誠一, 竹中生昌
学術・編集委員	高橋則尋, 富田忠孝, 山本修平
広報委員	沼田 明
会計・渉外委員	鬼無 信, 平石功治
香川県透析医学会事務局	高松赤十字病院腎センター内

ISBNを取得した会誌の発行はわれわれの永年の夢であっただけに、今後も継続的に発行して行きたいと思っている。香川県の透析医学会は前述のように参加者も多く、発表演題も多い。これを単に発表のみで終わらせず、論文形式で投稿することが大切であり、今後香川県内透析施設の学問的・技術的な向上と醸成に大いに役立つものと期待している。

また、今年度から香川県透析医学会のホームページもリリースされる予定でほぼ完成間近となっており、県内透析各施設への情報の伝達や連絡網、施設間の協力関係構築に非常に有用になるであろうと考えている。是非一度アクセスしてみたい。

おわりに

香川県における透析の歴史と最近の香川県透析医学会の活動状況について報告した。近年わが国の総医療費抑制は政策医療であった透析医療について特に厳しく、各施設ともにその対応に追われている。わが国の国民の高齢化は同時に透析患者の高齢化でもあり、介護保険適応の透析患者の増加につながっている。地域に根差し、地域住民に信頼される透析医療こそがこれからは求められるようになってくる。このような時代だからこそ、良質の透析医療を提供するためにも地域の透析医療機関の連携が重要であり、透析医学会の役割は重大である。香川県では県透析医学会には全施設参加しているものの、日本透析医学会に加入している施設が少なく、今後の関係者の働きかけが重要であろう。